

#### (5) 遺伝子導入の翌日以降

遺伝子の注射をした翌日から、2週間、毎日2回ずつ、ガンシクロビルという薬を点滴注射します。

ガンシクロビルは、先に導入しておいた遺伝子のはたらきで構造が変わり、前立腺がん細胞を攻撃し、がん細胞の増殖を抑えたり、死滅させたりすることが期待されています。ガンシクロビルの投与量は、あなたの腎臓の機能を考慮して、注意深く調節します。経過を把握するために、ガンシクロビル投与期間中は2日毎に血液検査を行います。また、1回の採血量は約20mlとなります。

#### (6) くりかえし（反復投与）

その後、(2)～(5)の治療をもう1度くり返します。

#### (7) 遺伝子導入後の管理

遺伝子の注射をしたあと、原則として個室に入院していただきます。これは、遺伝子の乗り物であるウイルスベクターが尿などに混ざって体外に排出され、それが他人に感染することを防ぐため、これを回収することを主な目的としています。血液や尿の中にベクターが混ざらなくなったことを検査によって確認した後（遺伝子の注射をしたあと、およそ数日間と考えています）は、自由にお部屋の出入りができるようになります。

#### (8) 遺伝子導入後から手術まで

2回の遺伝子導入とその後のガンシクロビルの投与が終わると（最初の遺伝子導入から4週間後を予定しています）、いったん退院して、ご自宅で待機していただきます。この間、激しい運動や、極端な過労は避けていただきますが、通常的生活をしていただいても結構です。

この間、おからだの不調やご心配が生じた場合は、いつでもご連絡ください。